

今後の塾の使命は、子どもたちの学ぶ意欲を引き出す多彩なメソッドを提供すること

集団一斉指導と個別指導、それぞれの限界と意義

以前の学習塾の基本形態は「集団一斉指導」でした。毎週決まった時間に子どもたちを集め、共通の目標をめざして子どもたちを奮い立たせ、黒板を使って授業をする。それが当たり前でした。しかし私は、「個への対応」を掲げ、公教育ではカバーできないことを民の立場から徹底して追求しようと邁進しているうちに、だんだん「これだけでいいのだろうか？」という疑問も感じるようになりました。

公教育は国民を集団として一定水準以上に引き上げるのが目標であるのに対し、民間教育は「個」にフォーカスした「個への対応」が重要です。それは今も間違いのないと思っています。しかしそれを言うわりには、

それを実現する方法論は学校と同じ

「集団一斉指導」であり、こちらが決めた時間と場所に子どもを呼びつけ、知識を一方的に伝えるスタイルをそのまま踏襲しています。見ようによっては、「個への対応」からはほど遠い、こちらの論理の一方的な押しつけになっていないか？ そういう疑問が心のどこかにあったのです。

一方、近年隆盛を極めていく「個別指導」形式は、確かに「個」にフォーカスした、近年の教育ニーズによく応えるものです。しかし個別指導が集団指導に対して優れているとは一概には言えないと思います。集団で学ぶことには利点があります。それは、子どもたちが互いの存在を意識して意欲を高める効果があるということです。いったん向上心や健全な競争心に火が点くと、子どもは自分で進んで学び始めます。これは

今なお実験を続けています。そして私に教育の将来について明るい展望を見せてくれたのは、「デイビッド・セイン英語ジム」です。

「デイビッド・セイン英語ジム」は、英語教育で著名なデイビッド・セインさんやマザー・カレッジの江藤真規さんと協力して立ち上げた英語教育メソッドですが、ここで伝えたいのは、「デイビッド・セイン英語ジム」が私の描いていた学ぶ側視点での学習スタイルを具現化しているという点です。デイビッド・セイン英語ジムは2013年4月よりeisuでスタートしましたが、すでに1000名を超える人気講座になっています。これは講師による教科指導も必要なく、子どもたちが年齢や学年の枠を越えて、めいめいの課題を追いかけながら、互いに刺激し合

って主体的に学習するという教育の理想の姿があります。

私は、子どもを拘束して一方的に働きかけるのではなく、子どもたちの学ぶ意欲を引き出し、学びに相応しい環境や雰囲気、そして効果的に学べる多彩なメソッドを提供すること、それがこれからの塾の使命だと考えます。eisuは「デイビッド・セイン英語ジム」だけでなく、WEB在宅受講システム「eドリル」や「パズル道場」など、学ぶ側視点と

自ら変革する勇気をもとう

よく調和するコンテンツを多く持っています。求められるスタッフも、教えることが専門の講師というより、人のモチベーションを上げられるコンシェルジュ・マインドの持ち主が重視されます。こうした新しいタイプの塾の業態について、eisuは意欲をもって取り組み、業界を先導するポジションでありたいと希望しています。

他業種では商品のコモディティ化が進行し、顧客から見たとときに違いが価格しかなく、品質についてはどの会社のも大差ない、とみなされる状況が広がりつつあります。しかし少なくとも教育サービス業においては、顧客が「どんな塾も大差ない」と思うことは決してありません。教育は消耗品ではありません。自分の子どもを託すことは家庭の死活問題であり、いつの時代も人は教育の品質差には鋭敏なのです。このことを信じて、どうしたら子どもたちの学ぶ意欲を喚起できるか、どうしたら顧客の心と私たちの心を共鳴させられるか、それを真剣に考えましょう。そしてそのためなら、古い殻はいっでも捨て、自ら変革する勇気を持ちましょう。

山本 千秋

代表(CEO)

eisugroup

eisu小中部、個別自立学習nice、eisu高校部、東進中学NET・東進衛星予備校、eドリル(WEB在宅受講コース)、デイビッド・セイン英語ジム
三重県／津市

